

すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月22日

No.7

堂々

と「テレテレ」の間



1年生の学年集会を参観した。各学級で定めた学級目標を、他クラスにアピールする。呼びかけ形式あり、目標の意味を伝える寸劇ありで、楽しい企画になっている。どうしたら伝わるかと学級ごとに工夫があって、学級としてのまとまりや、学級委員さんを中心とするリーダーシップの形も見えて、参観する方も十分楽しかった。

ただよく見てみると同じ1年生でもその中身はずいぶん違うようだった。本当に堂々とやっている生徒がいる一方で、テレテレ（恥ずかしそう）の後ずさりタイプの子もけっこういる。まっすぐ参観者の方を向けずに、前に出ているもの同士が顔を見合わせるシーンがいくつも、どの学級でも見られた。こうして全体の前に出ると、参観する側にいるときには隠れていた姿が顔を出す。実は、人前に立ったとき、テレテレだと、見ている側も恥ずかしくなってしまうもの。いくらおもしろい内容であっても、半減どころかマイナスにさえなり得る。全体の前で照れくさそうにしてしまうのはみっともないのだということがまだわからないのかもしれない。せっかく工夫された企画も、この雰囲気ひとつで壊しかねない。今回は堂々とやってくれた子がいたので、その



テレテレをカバーしたわけである。まじめで堅い内容であれ、くだけた内容であれ、やるときには堂々とやりきるのが一番良いのだと思うのだ。

個人の性格の要因とは別に、「テレテレ」と「堂々」との差はどこからくるのだろうか。一つにはこのパフォーマンスに参加する意識の問題。自分のこととして参加しているかどうかの気持ちの強弱がある。つまり当事者意識の強さだ。それと…子どもたちの普段のあいさつの様子でも感じるのだが、自分の中にある壁を越える気があるかどうか大きいのではないかなと思う。この2つの要因は、のちの活動に大きく影響するから先生方にも意識してほしいと思うのである。間近に迫った運動会でも、合唱でも、集団活動になると必ずこれがついてまわる。ここがうまくいっていると、私の経験では前向きで活動的な集団になっていく（問題が起こらないのではない〈苦笑〉）。周囲に起こる様々な出来事が、他人事ではなく、互いに関心を持っており、感情的であるものの、温かみのある雰囲気になっていく。かつてスキーに行ったとき、何が楽しかったか後日アンケートをとったら、一番は圧倒的にキャンプファイヤーだったという経験がある（那須甲子少年自然の家のプレイホールでやった）。



今回のような場合、私たちとしては、まず企画の中心で頑張った生徒を大いに褒めたい。それから、「堂々と」その企画をやり遂げた生徒を具体的に高く評価してあげたいものである（もう行われているとは思いますが）。そうして、次はあなたの番だと意識させられたら、集団の力を使って個人の力を伸ばすことにつなげられるのではないかなと思う。短時間だったが、なかなかおもしろい学年だと感じた。大いに期待が高まる機会になった。